

音ぶや休ふ,^{きごう}記号について

1. 音ぶについて

いろいろな音ぶがありますね。それぞれの名前がわかりますか？

音ぶがしめす音の長さは、それぞれちがいます。

音ぶの長さ

$$\circ = \bullet + \bullet + \bullet + \bullet \quad (\circ + \circ)$$

$$\circ\cdot = \bullet + \bullet + \bullet \quad (\circ + \bullet)$$

$$\circ = \bullet + \bullet$$

$$\bullet\cdot = \bullet + \bullet \quad (\bullet + \bullet + \bullet)$$



$$\bullet \dots \bullet \quad \text{の 半分の 長さ}$$

音ぶの部分^{ぶぶん}の名前

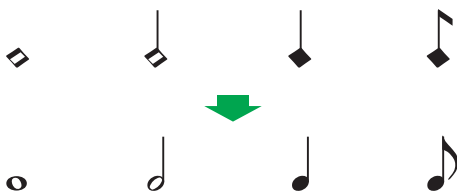


また、音ぶは  (五線ふ)

などに書かれたときは、
「たま」のいちで音の高さ^{あらわ}を表します。

〈音ぶ^{いまむかし}今昔〉

今から550年くらい前^{つか}に使われていた音ぶと、今の音ぶをくらべてみよう。



2. 休ふについて

音のない時間^{あらわ}を表すために、休ふを用います。

4分休ふ



4分休ふは ♩ (4分音ふ) と同じ長さを休みます。

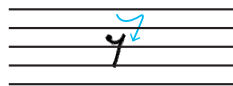


書くときは、下から上へ書きます。
五線ふに書くときは、書き始めを第二線の^{はじ}下から書き始めることをき本とします。

8分休ふ



8分休ふは ♪ (8分音ふ) と同じ長さを休みます。



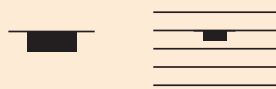
書くときは、左上から書きます。
五線ふに書くときは、書き始めを第三線の上から書き始めることをき本とします。



^{ほか}他にもいろいろな休ふがあります。

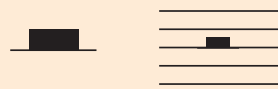
[れい]

ぜん 全休ふ



の四つ分休む
または1小せつ休む

二分休ふ



の二つ分休む

3. ト音記号と五線, 小せつ

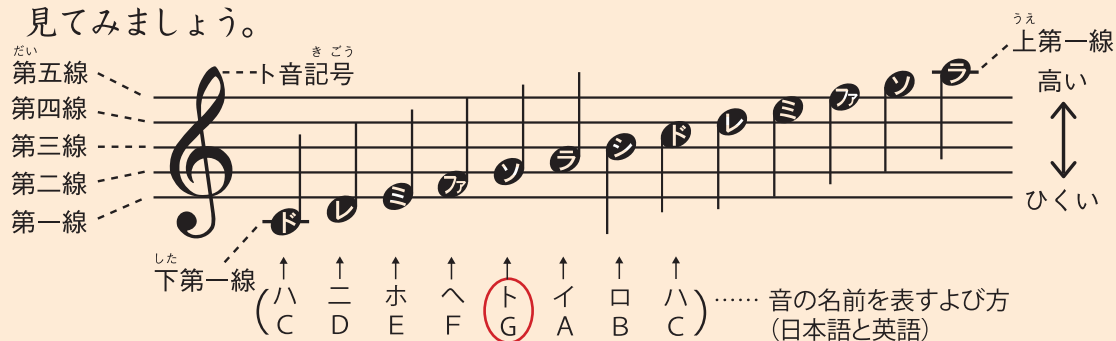
ト音記号と五線

五線は、音の高さを表すために使われる五本の線です。

加線を使って、さらに高い音やひくい音を表すこともできます。

みなさんがよく目にするト音記号と五線を使った楽ふについて

見てみましょう。



ト音記号は、アルファベットの「G」の形をかえたもので、

第二線の下から書き始めます。

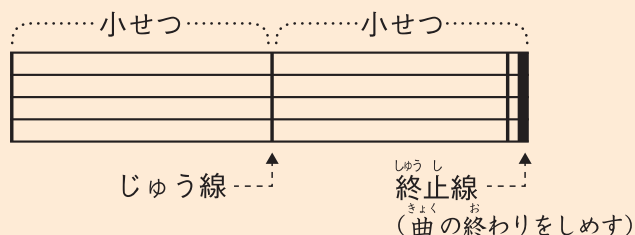
第二線が「ト(G)」の音であることをしめして、

音の高さがわかるようにしているのです。

小せつなど

楽ふは、ひょうしに合わせにくぎります。

くぎるときは小せつごとにじゅう線などを用います。



4. ブレス(息つき)

V は息つきを表します。

息つきは、フレーズの切れ目など、せんりつやリズム、歌しの流れがふ自ぜんにならないようなところでします。